



印西市民文化祭「能楽の集い」



印西市長 藤代 健吾

平素より印西市芸術文化協会岩井義春会長をはじめ、会員の皆様方には、市の芸術文化の振興に多大なるご尽力を賜り厚く御礼申し上げます。

芸術文化活動は、一人ひとりの個性を育み、感性を磨き、生きる喜びや感動を与え、人の心を豊かにし、私たちの生活に多くの潤いを与えてくれます。

貴協会におかれましては、貴重な発表・鑑賞・体験の場である市民文化祭の開催をはじめ、文化ホールや公民館等における地域に根差した幅広い文化事業を展開していただき、深く感謝の意を表します。

令和七年度は、伝統文化親子教室を開催し、次代を担う子どもたちに伝統文化に触れるきっかけづくりの場を提供し、その成果を第三十回目となる市民文化祭のオープニングで発表していただきました。教室運営にご協力いただきました団体の皆様方にはこの場をお借りし御礼申し上げます。

市といたしましても、皆様と連携を深め、ニーズを的確に把握し、対話を重ねながら「文化・芸術活動の推進」に一層努めてまいります。

今後も、貴協会の皆様、充実した活動を展開され、地域の文化発展を力強く牽引し、多くの市民の皆様は感動をお届けくださいますようお願い申し上げます。

印西市芸術文化協会は加盟十二団体により、事業計画に基づく企画運営を実施し、市民文化祭をはじめ市の文化活動の振興発展、そして次世代への継承に努めております。

昨年映画「国宝」が注目され歌舞伎等古典芸能の関心が高まりましたが、他にも日本には多くの素晴らしい伝統文化があり、日本人の感性に育てられた文化は、心の潤いや豊かさを育ててくれる力が有るように思えます。

現代社会では高齢化が進んでおります、当協会に於いても若い力の参加を切望しております。世代を超えて力を合わせ、文化の薫り高い印西市を目指してまいりたいと願っておりますので、市民の皆様方の御理解御支援を賜りますようお願い申し上げます。



印西市芸術文化協会 会長 岩井 義春

文化フォーラムについて

芸術文化協会 岩井 義春

令和七年七月十三日（日）開催された第十四回文化フォーラムは、当協会の上部団体である、印旛郡市文化団体連絡協議会（文団連）の主催による、近隣市町の印西・佐倉・成田・四街道・八街・酒々井の六団体が協力し芸術文化の発展振興を目的として、年一回持ち回りによる開催により交流の機会となり互いの技能の成果の発表の場としております。

今年度のフォーラムは成田市大栄公民館にて開催され、能楽連合会と民謡連合会が参加し好評を得ました、令和八年度は七月に八街市が担当で、舞踊協会と邦楽邦舞協会が出演予定されております。

フォーラムの参加団体は、発表部門のみとなりますが、皆様の応援をよろしくお願い申し上げます。



第 30 回 令和 7 年度 印西市民文化祭 開催

令和 7 年 10 月 26 日～11 月 30 日 芸術文化協会会員および印西市民の参加による文化祭が 6 会場にて開催され、多くの参加者で盛り上がりを見せました。



文化ホール（民謡、舞踊、邦楽、能楽、園芸他）



コスモスパレット（書道、絵画他）

イオンガーデンコート（茶道）



中央公民館（短歌、俳句大会）

総合福祉センター（囲碁、将棋大会）

印西市芸術文化協会 12 団体 各会長連絡先

囲碁連合会	榎井 隆根	(37-6151)	短歌連盟	本間 百々代	(97-2659)
園芸文化協会	青柳 文明	(42-3618)	能楽連合会	三城 康熙	(42-7474)
絵画協会	横山 護	(46-1688)	俳句連盟	瀧田 みどり	(77-8012)
茶道連盟	五十嵐 まゆみ	(42-2246)	舞踊協会	和田 敏子	(46-3523)
将棋連合会	大脇 孝夫	(46-4020)	邦楽邦舞協会	渡邊 俊子	(47-3721)
書道協会	岩井 義春	(42-6425)	民謡連合会	伊藤 敦子	(46-1691)



将棋連合会

大脇 孝夫

令和七年、日本憲政史上初の女性首相が誕生しました。将棋界でも日本将棋連盟会長に初めて女性の会長が就任しました。こうなると、待ちどろしいのは初の女性棋士の誕生です。棋士になるには奨励会三段リーグを勝ち抜く必要がありますが未だに女性がいません（現在の女流棋士会は女性のみで構成されている別枠リーグ）。なぜ女性棋士がいないのかについては諸説ありますが時間の問題に過ぎないとも言われています。事実女流棋士の中には才能きらめく若手が続々と生まれてきています。オリンピック競技は男女別で戦われますが将棋は違います。ガラスの天井などというものは最初からありません。盤を挟んで男と女が真剣勝負をする姿はぜひ見てみたいものです。令和八年中には見られるかも。



茶道連盟

五十嵐まゆみ

今回は茶杓についてお話ししたいと思います。茶杓は茶器の中から抹茶をすくう匙のようなものです。もともとは中国からの渡来したもので、葉をすくったすりつぶす為のもので最初は象牙製のものでした。象牙は当時も高価なものでしたので日本では竹などで作られる様になったそうです。茶杓は削った人の特長が出るのでその人の人格を偲ばせるものとしてその人と同等にみなされ大事にされるようになりました。真の茶杓 象牙・竹の無節 竹の止節（茶杓の一番下に節があります） 節の茶杓 竹の中節（茶杓の中心部に節があります） 桜や梅等の木のものは行、草は点前の種類によって使い分けられます。通常の点前では草の茶杓が使われます。千宗旦 以前のものは汚れを漆で防いでいましたが、以降のものは竹の肌そのままに残すようになりました。



俳句連盟

瀧田 みどり

印西市俳句連盟は、四つの俳句会で構成されています。木下手賀野俳句会 毎月第三日曜日 午後一時中央公民館 向日葵俳句会 毎月第四日曜日 午後一時コスモスパレットⅠ あけぼの句会 毎月第二日曜日 午後十二時半サザンプラザ ・ファミリア俳句会 毎月第二金曜日 午前十時ファミリア館 今年度の活動は、「いんざい俳句大会」と講師を招いて「文化祭俳句大会」を開催致しました。「文化祭作品展」では三十名の作品を展示し多くの方々に鑑賞頂きました。 「いんざい俳句大会」は 小学二年生の児童含む一般五名と総計三十五名の参加で大いに盛り上がりました。各句会では毎月楽しく活動していますので興味のある方はぜひ見学にお越しく下さい。



能楽連合会

藤本 純子

能楽は日本最古の演劇とされ、奈良時代の散楽を起源とし、室町時代に世阿弥によって確立しました。二百曲を超える演目があります。足利義満により芸術性が高められ、徳川家康によって全国に広まりました。能楽に親しむと登場人物の喜怒哀楽に感動したり、救われたりします。謡、舞、囃子で構成されていますが、会員は専らお腹の底から声を出し節の面白さ、難しさを楽しむ謡を主にしています。各演目の役になり謡います。

短歌連盟

品村 葉子

印西市短歌連盟の淵源は、昭和四十五年二月、斎藤茂吉の高弟で、当時短歌結社「歩道」を主宰していた佐藤佐太郎の印西町来町です。佐太郎の利根川を詠った水辺（すいへん）五首が毎日新聞に掲載され、そこから水辺という短歌会が発足されました。現在短歌連盟には水辺、山百合という二つの短歌会があり、それぞれ中央公民館、草深文化館を中心として毎月一回の歌会、吟行会その他の活動を行っています。また、別に春には陽春短歌大会、秋には市民短歌大会と短歌連盟主催の会も開催しています。昭和四十六年から発行されている『印西短歌』も今年で五十六号となる予定です。歴史ある短歌会を続ける為にご協力お願いします。



書道協会

岩井 義春

令和八年一月恒例の、印西市書道展及び第三部会小・中学校書き初め展を開催致しました、中でも子供たちの書き初めの力作を多くの方々に鑑賞いただくことは、大きな喜びでもあります。書道は文字を素材として、各々の個性と感性を表現する芸術と言えるでしょう、その基礎となる習字は、文字を正しく、美しく、そして読みやすく表現する方法を身に付け、実用的技術を学び、集中力を高め継続する力を養うことに役立つように思えます。日本には古来綿々と受け継がれてきた、多くの伝統文化があり、現在も習い事として継承されてきております、その一つである書道を、御一緒に切磋琢磨しながら楽しめる方をお待ちしております。



園芸文化協会

青柳 文明

日本の伝統文化である『盆栽』は、今や世界に広まり愛好されております。本会は盆栽を通し、会員が楽しく仲間をモットーに、毎月一回中央公民

源氏物語、平家物語など遠い昔の人物の思いと一体となり、共有することは至福の時間です。日々時間に追われるデジタル時代の今こそ親しみ、楽しむ芸能文化と感じています。



民謡連合会

齊藤 詔一

令和七年度の活動は、二大行事である六月の民謡民舞大正琴チャリティショーと十一月の文化祭「民謡の集い」が文化ホールで行われました。更に七月成田市大栄公民館で行われた第十四回印旛郡市文化フォーラムに参加。今回は、大正琴が発表し、そのうち二曲は大正琴の伴奏に唄を添えて発表、客席からは大きな拍手を戴きました。今はカラオケが流行っていて、唄いたい曲の伴奏に合わせて、いつでも唄えます。昔は伴奏機械が発達しておらず、手拍子に合わせて唄われました。誰でもご存知の代表曲福岡県の黒田節、七・五調四句からなる「今様式」で、平安中期から流行りました。特に福岡藩黒田武士達に愛されたものが昭和三年地元のエフエスから放送されると全国に広まりました。



囲碁連合会

松井 宏

六年前の初夏の頃、日本棋院関西総本部の清成哲也九段のお誘いを受け、長野県下高井郡の山奥にある地獄谷温泉への囲碁旅行に参加しました。

そこには後楽館という旅館が一軒だけあります。寒い時期になるとその露天風呂に野猿が入ることでも有名です。

その後楽館は昭和の戦前戦後を通して大勢の内弟子を育てられた日本棋院棋士木谷実九段の奥様、美春様のご実家で、木谷実と呉清源が新布石を開発した新布石発祥の地でもあり囲碁に大変ゆかりのあるところなのです。 たまたま「木谷道場」と七十人の子どもたち」という美春さんが編纂した本を読んだ直後でしたので美春さんが過ごした山道の散策も楽しく、甚も沢山打ち大変有意義な旅になりました。



舞踊協会

和田 敏子

令和四年に、六つの流派により舞踊協会が発足し今年で五年目を迎えることが出来ました、ご協力いただいた皆様方に改めて感謝申し上げる次第でございます。

六月二十日（土）「舞踊の彩典」を開催いたします。全員で踊る花笠音頭も好評を頂いております。又、七月印旛郡市文化フォーラムが、八街市中央公民館にて開催されます。舞踊協会では五曲踊る予定です。昨年は、映画「国宝」が社会現象になり注目されました、改めて日本舞踊は素晴らしいものです。踊って楽しい。観て楽しい。会員一同、皆様のご来場を心よりお待ちしております。



絵画協会

横山 護

館に於いての勉強会を開催し、会員同士で知識と技術の向上に努めております。 日頃の成果の発表の場としては、早春の「梅展」「夏季展」は中央公民館、秋季は「文化祭」として文化ホール及び小林公民館に於いての「コミュニティ祭り」に参加展示しております。（各展示会場にて苗木の無料配布を実施） 会員同士の盆栽交換会等も行っております。 興味のある方、是非御一緒に遊んでみては如何でしょうか。



来年（令和九年）には印西市絵画協会の設立三十周年を迎えます。一方、コスモスパレットは本年四月に駐車場及び民間施設の完成をもつて全面オープンとなり、集客力アップに繋がります。本年は、三十周年に向かいコスモスパレットをいかに活用出来るか、我々の企画力が試される年になると思われまふ。 芸術ホールも展示スペースとして使えることがわかりましたので、ギャラリーとホールを一体的に利用することにより、今まで以上の展覧会を企画することも可能となりました。

本年六年度の新しく生まれ変わる第二十六回印西絵画展に是非ともご来場いただきますようお願い申し上げます。

